

【光市】地域ぐるみの防災キャンプ

〈ねらい〉

島田川協育ネット協議会のシステムを活用して、学校・保護者・地域・関係機関が連携し、中学生が防災について学ぶとともに、避難所開設訓練や避難所体験等で感じたことを小学生や地域の方々に報告・提案することにより、児童生徒が災害時において、正しい知識をもとに状況を判断し、主体的に他の人々や地域の安全に貢献できる心と実践力を育んでいく。

実施内容

- 1 実施日時：令和2年8月22日（土）・23日（日）
- 2 実施場所：島田中学校 体育館・柔剣道場
- 3 参加者：【1日目】島田中学校生徒8名、学校関係者10名、保護者3名、地域住民4名、市防災危機管理課職員2名、ドローン体験講師3名、市教育委員会4名、県教育委員会1名
 【2日目（島田川っ子サミット参加者）】
 島田中学校生徒5名 島田小学校児童9名、上島田小学校児童8名
 三井小学校児童3名、周防小学校児童7名、学校関係者22名、
 保護者5名、地域住民10名、市教育委員会5名、県教育委員会1名

4 プログラム

【1日目】8月22日（土）

13:30	13:45	14:15	15:30	17:00	18:00	19:30	21:30	22:00
開 会 行 事	【研修Ⅰ】 防災講話① ・災害の様子 ・災害時の心 構え	【研修Ⅱ】 避難所設営講習 ・避難してきた地域 の人に優しい避難 所を考える	【研修Ⅲ】 ドローン体験 ・災害時の活用 ・操縦体験	夕食 ・保存食に よる食事	自由 時間	【研修Ⅳ】 中学生による熟議 ・島田川っ子サミット 準備 (活動から学んだこ と、災害時自分たち にできること)	就 寝 準 備	就 寝

【2日目】8月23日（日）

6:00	6:30	7:30	9:00	11:00
起 床	朝食 ・保存食に よる食事	【研修Ⅴ】 防災講話② ・これからの防災等 について考えてみよう	【研修Ⅵ】 小・中学生による熟議 ・島田川っ子サミット ・防災キャンプ（1日目）の 活動報告 ・災害時の自分たちにできる ことの提案	閉 会 行 事

5 活動の様子

1日目

《開会行事》

防災キャンプ中の連絡手段として、中学生一人ひとりに無線機が配付されました。



《防災講話①》

光市消防団副団長で防災士の平田さんから「近年の災害の様子」「災害時の対応と地域の取組」「災害時の心構え」について話していただきました。



《避難所設営講習》

光市防災危機管理課の職員や防災士からアドバイスをいただきながら、「思いやりのある避難所」「感染症対策」「学校にあるものを使用してプライベートに配慮」を視点に子どもたちで考える避難所設営を行いました。



《ドローン体験》

建設業としてドローンを扱っている横田さんから、災害時のドローンの活用方法等について教えていただきました。また、ドローンの操縦体験も行いました。



《中学生による熟議》

防災キャンプ（1日目）の体験から感じたこと、学んだことから、自分たちにできること、小学生や地域の方に伝えたいことを話し合い、島田川っ子サミット（2日目）で報告、提案する準備を行いました。



《食事》

1日目の夕食、2日目の朝食は、保存食を体験しました。



2日目

《防災講話②》

「これからの防災等について考えよう」と題して、島田川協育ネット協議会会長の田中さんから、防災キャンプの経験を通して、今後生かしてほしいこと、考えてほしいこと、心に留めてほしいことについて話していただきました。



《小・中学生による熟議》

2日目の「島田川っ子サミット」には、1日目から参加の中学生に加え、中学校区内の各小学校の児童代表と教職員、地域教育ネットにかかわる各地域の方々が約60名集まりました。

1日目の防災キャンプを体験した中学生が、中学校区内の小学生や地域の方に「活動報告」と「自分たちにできることの提案」を行いました。



【児童・生徒の感想から】

- ・ ドローン体験では、被害の状況を的確に把握する手段としてドローンが使われていることや災害後の復旧工事に役立つことを知り、興味をもちました。また、操縦体験という、普段できない貴重な経験もできました。
- ・ 避難所体験は、普段の生活と違い、不自由なことも多くとても大変だと感じました。もしも、多くの人が避難した場合に、今日食べた食料のことや何日間も避難所で生活することを考えると苦しいだろうと思いました。今回体験したことを活かし、災害時に自分にはできないことはないか真剣に考えてみようと思いました。
- ・ 防災食を食べました。日頃食べるものよりパサパサしていると感じましたが、思っていたより美味しかったです。避難時に食べるものがあることは、すごく幸せなことだと感じましたが、毎日食べるとなると飽きてしまうだろうと思いました。
- ・ 防災講話を聞いて、実際に災害で影響を受けた地域の様子と防災マップを比べたときに、ほとんど同じだったことを知り、防災マップは頼りになると実感しました。自分たちの地域は自分たちで守るために防災マップを確認すること、できることから始めることが大切だと思いました。
- ・ 避難所開設講習では、感染症防止対策として、防球ネットや卓球台で安全なスペースを作り出しました。さらに、プライベートゾーンを確保するため、ワンタッチ式テントを使用しました。テントは、飛沫感染防止に大きく役立つと思いましたが、真夏の体育館で、実際にテント内で生活すると大変暑く、苦しい思いをしました。
- ・ ドローン体験から、ICTの発展が災害時や災害後の復旧復興に大きく力を発揮するようになることを知りました。これから、情報技術もしっかり学び、予測不可能な未来に備え、対応できる力を身に付けていきたいと思いました。
- ・ 防災キャンプを経験して地域とのつながりを深めることが大切だと感じました。2年前に災害が起きたときには、小学生と中学生が炊き出しの手伝いや幼い子のお世話をしました。これは、日頃から地域とのつながりを大切にしているからできたことなのではないかと思います。災害時には、近隣や地域の方との助け合いが最も大切になります。地域の方とのかわりで交わす「ありがとうございます。」の感謝の言葉は、お互いに気持ちよく、地域をより好きになっていきます。地域とのつながりをこれからも深めていくことが、地域防災に役立つと考えています。
- ・ 体育館での避難所体験では、暑さに苦しみました。中学校には、大きな扇風機が3台ありますが、暑さを防ぐことができませんでした。スポットクーラー等の設備があれば、熱中症対策にもなると思いました。
- ・ 避難所開設講習や避難所体験を通して、体育館で使うトイレには、和式しかなく、足が不自由な方や高齢者の方には優しくないと思いました。洋式トイレが必要だと思いました。
- ・ 防災キャンプを体験して、お年寄りや小さい子を連れた家族はとても不安だろうと思いました。そのような方々が安心して快適に過ごせる避難所を作ることが必要だと感じました。そして、そのためには、みんなで協力することが大切だと思いました。